

「小中一貫」「統廃合」のもと、学校が消える！

名張の子どもや地域はどうなるの？

(裏面の名張市立小中学校規模・配置適正化後期実施計画の概要図もごらんください。)



名張市立小中学校の規模適正化、これまでの流れ

—三原淳子議員の報告から—

- H19年(2007年) 名張市立学校校区再編検討委員会設置
- H21年(2009年) 「小中学校の規模・配置の適正化基本方針」の素案
- H22年(2010年) 「適正化基本方針」「名張市教育ビジョン」策定
- H26年(2014年) ↓
国津小、滝之原小、錦生小の閉校
- H28年(2016年) 「名張市立小中学校の規模・配置の適正化後期実施計画」
2月 「小中学校統廃合と小中一貫制導入」提案 ←
3月 「名張市子ども教育ビジョン」(第2次)

子どもの実態より「行財政改革」優先、「適正化」と言えません！

「小中一貫と学校統廃合」

—京都教育センター

大平勲さんのお話から—

- ★ 「学校が消える」ことの意味 → まちづくり、防災の拠点、原風景……
- ★ 三重県下での小中一貫校は、来年4月に津の美里町で開校、名張が二番手？
- ★ 全国的にもまれな名張市の4・5制「小中一貫」
- ★ 「統廃合」先にありき、一貫していない名張市の「小中一貫」
- ★ 背景に教育の規制緩和、根幹には財務省『出す金を減らす』政策…

留意すること：「いつ？どこで？だれが？何を？」 決めたのか、
住民の願い、総意がくみあげられたものか (住民自治の基本)

小学校4校、
中学校1校
がなくなる！



父母の発言、 参加者の発言から

- 桔梗南小も桔梗小も統合の基準以上の児童数で統合の必要性がない。
- 子どもたちは、これまで以上に遠く、車の多い危険な通学路を歩くことになる。なんでこれが適正配置なのか。
- 市の財政規模上の適正化か、教育面からの適正化か、明確にとらえることが大事だ。
- 小学校がなくなれば、せっかく若い人たちが住みだしたのに出ていってしまう。
- 「4・5制」「小中一貫」ほとんど知られていない。
- 現場の先生には教育長がかんこうれい緘口令をしいていると聞いた。
- 教育長は、「合意」できない「案」の説明を繰り返すだけ。白紙に戻すしかない。
- 市長に直談判したい。



8月の報告

8月は、名張市小中学校の「適正化後期実施計画」をテーマに、父母・市会議員・教育研究者の立場からご発言をいただき、話し合いました。名張市のまちづくり、名張市の未来にかかわる問題として、今後取り上げて行きたいと考えています。
(意見・要望をお聞かせください。)

(文責・松本)

「名張市立小中学校の規模・配置の適正化後期実施計画」ってどんな内容？

(以下は、名張市教育委員会が発行した冊子及び地域で行なわれた説明会の内容に基づいて作成しました。)

その1

統合 (全学年が1学級で、今後もその状況が続くような小学校が対象となる)

薦原小 (112人 6学級) → 美旗小 (413人、12学級) に統合 → 児童数 525人 16学級になる。

箕曲小 (121人 6学級) → 百合丘小 (458人 15学級) に統合 → 児童数 579人 17学級になる。

——平成28年度の児童数——

(目的：集団の中で多様な考えに触れ、切磋琢磨するために
必要な環境を整える)

その3

4・5制の小中一貫校 「桔梗学園」(仮称) の新設

●教育委員会の説明による “小中一貫校のメリット”

- * 確かな学力の向上と体力の向上 (系統性、連続性のある指導による)
- * 人間関係力の向上
- * いじめの防止と不登校問題の解消
(一人一人の子どもの現状を把握・共有し、9年間の一貫した指導によって早期発見、早期対応ができる)
- * ふるさとを愛する心の醸成 (「名張学」を創設、9年間学ぶ)
- * 英語力の向上 (小学1年から英語教育を実施)

※ 名張市は平成31年度以降、小中一貫教育を市内全域に拡大していく計画です。
(リーフレット「名張市が目指す小中一貫教育」)

※ 今回提案の後期計画は、「名張市立小中学校の規模・配置適正化基本方針」(平成22年2月策定)に基づくもので、計画期間は平成28年から32年度までの5年間。

その2

校区再編 (目的：地域とともにある学校づくりをめざすため)

- * 鴻之台1番町に住む蔵持小の児童 → 名張小へ
- * 蔵持原出の一部に住む桔梗が丘南小の児童 → 蔵持小へ
- * 池の台に住む桔梗が丘東小の児童 → 美旗小へ

● 蔵持小学校はこれまでの桔梗が丘中学校から北中学校に
校区変更 (「桔梗学園」設置に伴い桔梗中廃校となるため校区再編)

その4

桔梗学園 新設に伴う近隣小学校の統廃合 「適正配置?」「校区再編?」

362人 桔梗が丘小 212人 桔梗が丘南小、 186人 桔梗が丘東小 の内1年~4年まで **527人**を
(開校時推定数)

桔梗が丘東小 に統合して4・5制の「桔梗学園」の前期課程とし、
桔梗が丘東小学校を利用する。

⇒ 桔梗の二小学校と桔梗中学校が消える

上記3校の5年~6年までの児童(283人)と桔梗中の生徒(394人)の計677人
(開校時推定数)は、4・5制の「桔梗学園」の後期課程とし、
桔梗丘高校(平成30年閉校)の跡地を利用する。

桔梗学園

(桔梗丘高校跡地)

⇒ 「桔梗学園」が新設されると児童・生徒数は前期、
後期課程合わせて **1200人を超えるマンモス校**となる。